

久見崎盆踊り「想夫恋(そうふれん)」



1597年(慶長2年)豊臣秀吉の朝鮮出兵の際、島津義弘率いる1万人余の軍勢が、薩摩の軍港・久見崎から出航した。翌年、豊臣秀吉の死により全軍引き上げたが、兵士の中には戦死者も多く、戦死者の霊を慰めるために久見崎の未亡人達の間で踊られるようになったのが想夫恋の始まりである。

現在は8月16日、川内川河口左岸の日和見山にある慶長の役記念碑の前で行われている。

女性達はお高祖頭巾に男物の黒紋付の羽織を着て、腰の後ろに脇差を差す。男物の羽織や脇差は夫の形見であり、頭巾で顔を隠すのは夫の霊を迎え慰めるという意味が込められている。

1971年(昭和46年)に、鹿児島県無形民俗文化財に指定された。

【奉納・披露】

日程：毎年8月16日 10時～

場所：慶長の碑建立の地(久見崎町日和見山)